

第5学年 図画工作科学学習指導案

日 時 7月11日(土) 2校時
対 象 5年1組 31名
授業者 八嶋 孝幸

1 題材名 「ワンダー・アニマルズ THE MOVIE」(工作)

2 校内研究との関わり

本題材は、木材を糸鋸で切ってつくった工作作品「ワンダー・アニマル」を用いて、コマ撮りアニメーションを製作する題材である。児童は、自分がつくった「ワンダー・アニマル」の形や色、顔の表情、吹き出しの言葉などに改めて目を向け、それらの特徴を生かしながら、どのように動かすと生き生きと見えるのか、どのような場面になると自分の表したいことが伝わるのかを考えていく。「ワンダー・アニマル」は、顔と吹き出しの部分がホワイトボードになっており、表情や吹き出しの言葉を自由に変えることができる。この特徴を生かすことで、児童は、静止した工作作品に動きや時間の流れ、物語性を加えながら表現を広げていくことができる。本時においては、児童が前時までにつくった作品の特徴を基に、カメラの位置、動かす速さ、背景や小物、表情や吹き出しの言葉などを試したり組み合わせたりしながら、コマ撮りアニメーションを製作する。撮影した動画を見返したり、友達の作品と比べたりすることを通して、見え方や伝わり方の違いに気付き、自分の表したいことに近付くように表現を修正していく。このような活動を通して、形や色、動き、構成、時間のつながりなどの造形的な視点を働かせながら、自分なりの方法を選択し、表現を追求する姿を目指す。

本時では、「自律に向かう学び」として、次の段階を位置付ける。

- ㊦子どもが選択する場面が生まれる。
- ㊧児童と教師が学びの進め方を調整する。
- ㊨児童が自分で方法を考える。

また、多様な表現を認め合い、一人ひとりの考えの違いやよさを共有することで、

- ②認知・思考の多様性 を生かした学びにつなげていきたい。

3 本時の授業

(1) 目標

表したいことに合わせて材料や用具、表現方法を選択・活用し、これまでの経験や技能を生かしながら、コマ撮りアニメーションの表し方を工夫して表すことができる。

(2) 展開 5/6

学習活動		・教師の働きかけ ◎評価 ☆支援 □校内研究との関わり
1 前時までの確認と既習内容との関連付けをする。		・前時までにつくった「ワンダー・アニマル」を改めて見つめ、形の特徴、色の組み合わせ、顔や吹き出しの部分のよさ等を確認する時間を設ける。 ・アプリの操作や動かし方の基本を再確認し、本時の工夫につなげる。 ・「この形だからしそうな動き」「この色や表情から思い浮かぶ場面」「吹き出しの言葉を変えることで生まれる物語」などに目を向けさせ、自分の作品の特徴を生かした表現につなげられるようにする。 □多様な作品例をクラウド上で共有し、多様なアイデアを認めながら安心して学習を進められるようにする。 〔多様性②〕
2 課題を確認する。		
自分のワンダー・アニマルらしさを生かしたコマ撮りアニメーションにするためにはどうしたらよいか考えて表そう		

3 製作の際に気を付けるポイントについて確認する。 ・形や大きさの見え方 ・色や背景との組み合わせ ・動きの速さや変化 ・表情や吹き出しの言葉による意味付け ・画面の構成 ・撮影後の確認と修正 4 イメージしたことを基に、工夫して表現する。 ・この動物は小さいけれど強そうに見せたいから、下から撮ってみよう。 ・顔を笑っている表情にしたら、楽しそうな場面に見えるかな。 ・背景を青にすると海の中みたいに見えるから、この動きに合いそう。 ・一気に動かすと速すぎるから、少しずつ位置を変えて撮ってみよう。 ・吹き出しの言葉を変えたら、同じ動きでも別の場面に見えてきた。 ・友達の動画は、近くで撮っていて迫力があつた。自分も最後の場面だけ近づけて撮ってみたい。 ・見返してみたら、動きが分かりにくかったから、背景の物を減らしてみよう。 ・思っていたより暗く見えるから、置く場所や背景の色を変えてみよう。 ・ワンダー・アニマルが画面の端に寄りすぎているから、真ん中に置き直してみよう。 5 活動を振り返る。 ・表情を変えると、同じ動きでも気持ちが違って見えることに気付いた。 ・少しずつ動かして撮ると、ゆっくり動いているように見えた。 ・背景の色を変えると、場面の雰囲気が変わった。 ・友達の作品を見て、カメラの角度を変えると迫力が分かることが分かった。 ・次は、最後の場面がもっと伝わるように、吹き出しの言葉を工夫したい。 ・見返してみると、動きが速すぎたので、次の時間に撮り直したい。	・ポイントについて、板書やクラウド上で共有する。 □児童が自分のやりたいことや進捗状況に合わせて「一つの作品をよりよくする」「新しい作品にチャレンジする」など、表現方法の工夫をしながらそれぞれの課題に取り組めるようにする。〔自律⑦⑧⑨〕 ・図工室の環境を整備し、コマ撮りアニメーションに必要な材料・用具を、適宜使用できるようにする。 ☆困り感が見られる児童には、教師がアプリケーションの具体的な操作や動画例を示しながら確認したり、簡単にコマ撮りアニメーションを試し撮りしたりして、イメージを膨らませられるようにする。 □製作した作品は、随時クラウド上にアップロードして、共有できるようにする。また、適宜お互いの作品を見合い、感想やアドバイスを伝え合うよう促す。〔多様性②〕 ◎表したいことに合わせて材料や用具、表現方法を選択・活用し、これまでの経験や技能を生かしながら、コマ撮りアニメーションの表し方を工夫して表している。 【知識・技能】製作の様子、つぶやき・発言、作品 ・振り返りでは、次の視点を示す。 ①どのような工夫をしたか。 ②その工夫によって見え方や伝わり方がどう変わったか。 ③次にどこを修正したいか。 ・自分の表現の変化やよさに気付けるようにするとともに、次時の活動への見通しをもてるようにする。 ・次時は、本時の振り返りを基に修正等した後に、完成した作品を鑑賞し合うことを伝える。
---	---

